

審査の結果の要旨

氏名 中釜洋子

本論文は、「関係系志向アプローチ」によって対立的な理論背景を有する個人心理療法と家族療法の概念や技法を実践的に統合する理論モデルを探究することを主題としている。第1部では文献研究によって、先行研究の統合理論を系譜別に再検討して個人心理療法と家族療法の二元論を超える契機と基盤を解明し、第2部では文献研究と事例研究によって「関係系志向アプローチ」を構成する鍵概念を抽出し、第3部では「関係系志向アプローチ」の適用と展開の可能性を事例研究によって検証している。

第1部では心理療法における統合的アプローチを「技法的折衷」「理論的統合」「共通因子アプローチ」等の諸系譜において理論的に再検討し、「同化的統合」と「システム的な統合」を継承しつつ「関係系志向アプローチ」の方法論を提示している。そして家族療法のパラダイムにおける「ジェノグラム」に代表される共存共生の関係志向や心理臨床場面で生起する「不連続」に対する積極的な扱い等に、個人療法と家族療法を統合する理論的基盤を見出している。

第2部では関係援助を構成する鍵概念として「ジェノグラム」の機能、家族間における「忠誠心」と「破壊的権利付与」の機能、「多方面への肩入れ」による対話の成立と公正と公平の概念、「ジェンダー・センシティブ」な関係における対等性と公平性の重要性が、事例によって考察され、個人療法と家族療法を併用する心理療法の過程が記述されている。

第3部では「関係系志向アプローチ」の事例研究によって「母子並行から親子並行」の面接へ移行する必要性、「個人面接と合同面接」を併用した個人と家族に対する心理援助の有効性、および学校臨床心理において教師との協働が実現した事例が考察されている。

本論文は上記の探究による結論として、多数乱立する心理臨床理論を文脈に応じて取捨選択し統合するための原理を以下の諸項目で提示している。「関係系志向アプローチ」は個人内心理力動への介入と対人的相互作用への介入を兼ね備えていること、個人面接と合同面接を併用すること、包括的アセスメントによって関係系の多層性を認識すること、表層と深層の二つの次元で援助を同定すること、レディ・メードとオーダーメイドの面接形態を組み合わせること、面接形態において協働のスタンスを保持すること、不連続性を統合の契機とすること、ジェノグラム面接に精通すること、多方面への肩入れを活用すること、家族合同面接が困難なときは並行面接を組み入れること、家族面接と個人面接の二つのベクトルを柔軟に組み合わせることなどの諸原理である。

本論文は、個人療法と家族療法を統合する理論の詳細を精緻に考察した点、「関係系志向アプローチ」を提唱し理論的に基礎付けた点、心理臨床家による折衷と統合の方法論を具体的に開示した点、および臨床経験で培われた繊細な知見と見識が論文の随所に記述されている点において卓越しており、心理臨床の研究と実践に多大な貢献を行っている。よって本論文は博士（教育学）の学位論文として十分な水準に達していると評価された。